

婦人科疾患と子宮癌について

TOPICS



こんにちは。婦人科外来、月曜担当の北見です。その他の曜日は北里大学病院で婦人科癌（子宮癌や卵巣癌）の診療を行っています。水曜（午前）を北里大学教授の加藤先生、木・金は東海大学医学部附属病院の中嶋先生、網野先生が担当しています。

婦人科疾患と子宮癌検診を中心に診療しており、対象疾患は月経困難症（生理痛）、月経前症候群（PMS）、子宮筋腫・腺筋症、卵巣腫瘍、子宮内膜症、子宮頸部異形成、骨盤臓器脱、更年期症候群などです。個人開業クリニックと異なり、妊婦健診や分娩を扱っていないため診療に余裕があること、CTやMRIなどの画像診断機器が充実しており精密検査まで完結できることが強みです。手術や高度な治療が必要な場合には、適切な治療が受けられる病院へ迅速に紹介いたします。

近年、女性が自らの妊娠・出産を含む、性と生殖に関するあらゆることにおいて自由に意思決定ができることの重要性が唱えられています（実はSDGs目標になっています）。女性のエンパワーメントには月経困難症からの開放、妊娠のコントロール、更年期症状の上手な乗り越えが不可欠です。これらの点では日本は後進国で、月経困難症に苦しむ女性が多いのが現状です。月経困難症は生活の質を低下させ、放置すると悪化し不妊症の原因にもなります。多くは、腹腔内への月経血逆流によって発生する子宮内膜症が原因です。低用量ピルと呼ばれる女性ホルモン剤内服により劇的に改善します。月経に伴う心身不調（PMS）や肌荒れの方にも効果的です。女性ホルモン剤の内服で、月経を前後にずらすなど、日程をコントロールすることも可能です（自費診療の場合あり）。性交渉経験のない方は内診ではなく、お腹からの超音波で検査しますので、安心して受診して頂けたらと思います。

また、更年期症候群も生活の質を著しく低下させます。出現時期には個人差があり、40代前半から出る人もいます。症状は多彩で、異常に汗が出るhot flash、肩こり、不眠、指のこわばり、イライラなどが典型的です。漢方内服も選択肢ですが、ホルモン補充療法（HRT）が非常に効果的な場合があります。内服とパッチ剤があり年齢など

に応じて選択します。欧米では閉経後女性の約4割が更年期症状に対してHRTを受けていますが、日本では1.7%に過ぎません。お困りの場合は婦人科にご相談ください。上手に更年期を乗り越えるお手伝いをさせていただきます。

婦人科の癌には卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌がありますが、いずれも増加傾向です。卵巣癌は排卵回数が多い（妊娠・出産・授乳が少ない）ことが原因の一つとされており、低用量ピルは排卵抑制によりリスクを低減させます。親族に卵巣癌や乳癌の方が多い場合も発症リスクが高いです。子宮体癌の増加原因は、食の欧米化による肥満の増加です。子宮頸癌の増加原因としては、初交年齢の若年化、喫煙率の上昇、検診率の低さが挙げられます。

子宮頸癌の9割はHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因です。HPVはホモ・サピエンスが誕生したのと同様時期、20万年前から存在し、巷にあふれています。性交渉により感染し、女性の約8割が生涯で一度は感染します。約3割の女性が免疫で排除できず持続感染し、5～10年かけて子宮頸癌を発症します。初交年齢の若年化と晩婚・晩産化により、子供が欲しい時期と子宮頸癌の好発時期が一致しており、子供が欲しいのに子宮摘出を余儀なくされる、闘病むなしく小さな子を残して亡くなるなど悲しい場面によく遭遇します。こうならないために、予防と早期発見（癌検診）が重要です。予防にはHPVワクチン接種が有効であり、小6～高1女子は定期接種（無料）が可能です。また過去のワクチン副反応の報道を受け、接種を控えた1997～2007年度生まれの女性も無料接種できる「キャッチアップ接種」を2025年3月まで実施中です。副反応は調査され、思春期女子にワクチンと無関係に一定頻度で起こる症状であることが分かっていますが、保護者の方は未だにそのイメージが強いようです。副反応報道がなされ、積極的接種勧奨が停止した約10年間に、HPVワクチンを接種していれば助かった命が約10,000人と推計されています。ぜひとも我が子、孫を守るHPVワクチン接種を前向きに検討して頂ければと思います。

女性が生き生きと過ごせるよう誠心誠意サポートさせていただきますので、お気軽にご相談ください。

婦人科 北見 和久



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>



予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950